

No 23  
30 April 2009

日本・パプアニューギニア協会会報

ごらくちょう

Bird of Paradise

発行 NPO法人 日本・パプアニューギニア協会

発行日 平成21年4月30日

編集 NPO法人 日本・パプアニューギニア協会広報部 〒102-0074 東京都千代田区九段南1-6-17 千代田会館6F(ニューギニア航空日本支社内) TEL 03-5216-3555 FAX 03-5216-3556

# LNG Working Visit Delegation Reception

——— パプアニューギニア大使館 ———

2009年2月17日、午後6時よりホテルニューオータニ(東京赤坂)にて、パプアニューギニア大使館主催のLNG(液化天然ガス) Working Visit Delegation Receptionが執り行われた。これは、パプアニューギニアよりサミュエル・ア



ツギに、ソマレ公共省大臣より、次のようなメッセージをいただいた。「日本とPNGの関係レベルは高い。特に、国と国、人と人レベルでの交流は顕著であり、今後、コマーシャルベースでのさらなる発展も望まれる。」

バル外務貿易入国管理大臣とアーサー・ソマレ公共省大臣が日本の外務省を通して公式訪問した際に行われたもので、企業、団体、個人の方々など100名ほどが招待された。

まずはじめに、マイケル・マウエ大使より歓迎のスピーチ。

つづいて、アバル外務貿易入国管理大臣より貴重なお言葉をいただいた。「日本とPNGの関係は、政治、経済、外交だけでなく、商業、貿易、エネルギーなど、あらゆる分野で、長くそして深い。昨今、LNGプロジェクトが始まろうとしているが、PNG政府は、日本のようなパートナー諸国も恩恵を被るよう、このプロジェクトに積極的である。」



アバル外務貿易入国管理大臣と小野真弓PNG親善大使

その後、PNG親善大使の小野真弓さんより両大臣それぞれに花束が贈呈された。そして、衆議院議員伊藤公介様が乾杯の音頭をとってくださり、なごやかに歓談が始まった。

写真提供:  
賀部祥平様(当協会会員)



マウエ大使より歓迎のスピーチ



ソマレ公共省大臣



伊藤公介先生の乾杯音頭

# 浴衣で文化交流、そして奉納の舞

志村 容一

(当協会会員・東京町田クレインライオンズクラブ)



コゲ村、きれいな所でしょう

2008年11月、雨期に入ろうとしているパプアニューギニアへ、いざ出発! 今回の我々一行は9名。しかも、そのなかの4名は、なんとプロの舞踊家、日本舞踊の先生、という素晴らしい顔ぶれである。

ポートモレスビー到着後、国内線に継ぎ一路ゴロカへ。我々の乗った飛行機は満席で重そうだった。ゴロカに到着すると、なにやらザワザワと騒がしい。なんと、コゲ村のモエナハイスクールの校長先生と、2年前町田市で行なわれたマラソン大会(武相マラソン)に出場してくれた2人のうちの1人、スケネ君が、学校のトラックに乗って4時間もかけて出迎えに来てくれたのである。フェンスの向こう側で、目に涙をいっぱいため、大きく手を振っている。スケネくん……、ありがとう。

4時間の陸路の末、ようやくコゲ村に到着した。地元の人とはもうすでに顔なじみ……、といったような雰囲気。

翌日、小学校の朝礼に参加。入口にはいつもの横断幕。今日は、ギターも加わり音楽に合わせて入場した。我々はお揃いの浴衣で出席し、各自が花の首飾をつけてもらった。大満足。しかし、雨期間近ということで道が悪く、上は浴衣だが、履物は靴やキャラバンシューズにせざるをえなかった。

そして、校長先生の挨拶、文具などの授与式が終了し、いざ、盆踊りの披露へ。炭坑節の音楽に合わせて踊り始めるが…、全員ビックリ!



こんなに大勢 集まりました



コゲ村の人たちと我々一行

1回目は我々だけが踊ったようなものだったが、つづく2回目は、思いもよらない展開になった。年少の子供たちが参加し始め、だんだんと高学年へ。そして、回が重なるたびに先生や父兄の参加も。なんと、終盤には全員が踊り、輪も1重



幾重にもなった踊りの輪

# 僕たちの星は 僕たちで守るんだ!

花井 錬太郎(当協会会員)

2008年12月6日(土)、「エコ&みえ 子ども地球温暖化防止会議」が三重県津市で行われた。このイベントは、私が推進員をつとめる三重県地球温暖化防止活動推進センターが主催者となり、三重県環境保全事業団が共催、環境省中部地方環境事務所、三重県、三重県教育委員会、三重大学、鈴鹿市、亀山市、津市、伊勢市が後援してくださり、今年で第2回目をむかえる。

同会議の目的は、各国各地域から地球温暖化対策について取り組む子どもたちを招き、知事、センター長、有識者、一般参加者と自然や環境について意見交換を行う場を提供することである。

パプアニューギニアも残念ながら、地球温暖化による悪影響国から漏れず、海面上昇などいくつかの環境問題をかかえている。なので、よし、ここはぜひともPNGの方にも参加していただこうと、老体に鞭



会議の様子

から2重3重4重と大きくなった。この日のコゲ村は炭坑節一色に染まった。音感、リズム感のすばらしさに我々一同ビックリ! みなさん、ご参加ありがとうございました。

(次号につづく)

# ////// 「シンプルライフ・イン・パプアニューギニア」 ////

在日PNG留学生とイレーネ賀集 写真展

鑑賞ツアーに参加して

植田 早苗 (当協会会員)

打ち動き出した。

幸いにも、当協会PNG人会員のサイモン・バハウさんが、お友達PNG人、Ms Pauline OfoiとMr David Nugiを快く紹介してくださった。両名は三重県から遠い九州に住んでいらっしゃるにもかかわらず、はるばる三重まで来て、会議に参加してくださった。事前の打ち合わせもなかなかできず、ぶっつけ本番になってしまったが、お二人とも自国の自然環境、地球温暖化対策に関する考えや意見を立派に述べてくださった。ほかに、インドネシア、韓国からも2名、日本の小学生も十数名参加し、有意義な国際交流、意見交換が行われた。

また、エコカレーライス、環境カルタ遊び、地球温暖化防止紙芝居など体験型活動にも参加していただき、おおいに盛り上がった。

(次号につづく)

2009年2月8日(日)、在日PNG留学生を招いてのイレーネ賀集写真展鑑賞ツアーが開催され、23名の方々が参加されました。

ツアーの集合場所は写真展会場の新宿コニカミノルタプラザ、集合時間の午前11時には大半の方々が集まりました。全員揃ったところで記念撮影をいたしました。

そして、主催者のイレーネ賀集氏から、展示されている写真について一点一点説明をお聞きいたしました。作品には、とても素朴な中にエネルギーを感じさせるもの、暗闇の住まいの中で家族が集う情景をとらえたものなど、観た人に忘れていた温もりを感じさせるものが多くありました。また、自然と共生するPNGの人々の豊かな心を感じさせる作品もあり、煩雑な都会暮らしをしている現代人へのメッセージと受け取りました。

在日留学生のリア・ダマさんは、現在早稲田大学に留学中です。リアさんは、ありのままのパプアニューギニアの村人の普通の生活を描きだしている写真を観て、写真は「千の言葉」以上の力を持っていると感じられたそうです。他にも、多くの日本の方々が、写真展を観てさらにパプアニューギニアのことが知りたくなったとおっしゃってくださいました。

その後、写真展会場から懇親会会場の台湾料理レストラン「カホウ本店」まで新宿駅地下道を皆で歩いて向かいました。



懇親会にて 左から那倉様、リア様、古谷様

懇親会会場では、まず当協会会長山下勝男様から、日本とPNGの友好がさらに深まることを祈念するというご挨拶を頂きました。また、参加された当協会会員の方々からは、PNG留学生とお話する機会を得て、今まで知らなかったPNGの様子も理解でき、とてもよい交流の場になったというご意見も頂きました。

現代社会では、少しでも早く、無駄なく、賢く生きることが重要だと考えられ、つい目先のことにとらわれてしまうことが多いと思います。

少しでもゆったりと、そしてシンプルに生きる、今回の写真展のテーマでもある言葉通り、自然と共生している素朴な暮らしの中にこそ、人々の心と心を繋ぐ未来の平和が見出せるような気がいたしました。

これからも「シンプルライフ」を大切なキーワードとして、心に留めていきたいと思えます。拙いコーディネートしかできませんでしたが、写真展や懇親会を通して日本とPNGのかけ橋のお役に立てましたことを光栄に思います。

なお、この観賞ツアーの企画には日本・パプアニューギニア協会の協賛を頂きましたことをご報告申し上げます。



左からリネス様、イレーネ様、リア様



懇親会にて 左からリネス様、武田様



ポーリン様が発表

在日PNG留学生とイレーネ賀集写真展「シンプルライフ・イン・パプアニューギニア」鑑賞ツアー

コニカミノルタプラザ 東京 2009年2月8日



全員で記念撮影

